

## はじめに

「大谷石文化」が、日本遺産に2018（平成30）年に認定されました。大谷石は江戸時代頃から建材として利用されていて、明治以降は採掘が本格化し、輸送手段の発達などにより出荷量は飛躍的に増加し、日本の都市づくりの礎となりました。約1400万年前（新第三紀中新世）の海底噴火による凝灰岩が大谷周辺地域に分布し、「大谷石」と総称されています。一般的な大谷石のほかにも、採石地や岩質によって田下石、桜田石、戸室石、さらに徳次郎石（日光石）などと区別された石材があります。

このうち徳次郎石は、宇都宮市富屋地区の徳次郎山（田中山などとも呼ばれる）から産出される凝灰岩で、ミソがほとんどなく、灰白色で細粒の岩質上の特性から、富屋地区において蔵や神社などの美しい石造建造物として利用されて、現在まで地域特有の景観を残しています。宇都宮市制100周年地域記念事業の一環として、1996（平成8）年に元石工等多くの地域の人々の協力を得て宇都宮市立富屋公民館などが地域貢献事業として取り組み、徳次郎石の発掘、見直しに一定の成果を上げました。

これらの成果をふまえて、多方面の専門家・研究者の連携によって、さらに推進させて地域貢献に資することを旨として、徳次郎石研究会が2019（令和元）年5月に発足しました。この研究会の活動は緒に就いたばかりで、その成果はまだまだ不十分で、検証すべき課題なども多々ありますが、2019（令和元）年度での徳次郎石研究会の現段階における活動成果として、「徳次郎石研究会活動成果報告書」を作成しました。

今後、さらに多くの郷土史、建築・美術や地質・岩石の専門家・研究者などの連携によって、徳次郎石についての多方面の知見をさらに深めることで、徳次郎石についての採石・活用など集落を支えた歴史を記録するとともに、建築・美術や地質・岩石的な学術的価値について明らかにしていきます。これらによって、徳次郎石を活用した未来に向けての新たな街づくりへ地域貢献を今後も目指しております。

本会の成立・運営にご尽力をいただきました、皆様に熱く御礼申し上げます。また、地域の皆様には、格別のご協力とご支援いただき、心より感謝を申し上げます。

2020（令和2）年3月

徳次郎石研究会 代表幹事 中川 博夫  
幹事 池田 貞夫  
幹事 中村 洋一